

木曾路名所圖會

三



20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



木曾路名所圖會卷之三



落合  
 霧原山  
 第本  
 皂鵬巖  
 丸山城跡  
 岐阻路山中  
 光德寺  
 兜巖  
 三富野  
 羅天橋  
 牛頭天王  
 劔宮

目録  
 落合橋  
 御坂古蹟  
 兼好法師跡  
 下坂川  
 吉籾路  
 雄雄瀑布  
 妻籠古城  
 風越山  
 園原先生碑  
 伊勢山  
 住吉祠  
 熊野権現

十曲嶺  
 菌原  
 鎌倉街道  
 木曾川  
 大妻籠  
 鯉巖  
 古木若岳  
 牧澤橋  
 素波蘇嶽  
 白山権現  
 等覺寺

義信園場  
 伏登邑  
 馬籠  
 永昌寺  
 妻籠  
 牛頭天王  
 烏帽子巖  
 捨樹澤  
 横川戸橋  
 揚籠山  
 若宮祠  
 観音堂



岩戸親音

○野尻

鹿島祠

妙覺寺

長野

貴布祢祠

阿滿橋

淨勝寺

小野滝

獸類皮店

鹿嶋祠

本曾様旧跡

本曾川

興善寺

名産和合酒

飯盛山

白山権現

野尻家

今昔兼平城

出雲祠

磐出親善

本堂  
左京大夫親豐墓

形免川橋

親善堂

神明

御嶽川

御室

本堂  
受岩祠

三富堂邸

本曾大河

住吉祠

本戸致春家

木曾殿館

天長院

須原

十王堂  
鐘樓同鐘銘

藤川寺

阿弥陀堂

三飯廻翁閑居

御嶽

福島

稻荷祠

木曾古道

牛頭天王

諏方祠

聖尻城山

弓矢八幡

辨財天森

伊奈川橋

麻海祠

寢覺床

氣比祠

○上松

御嶽鳥居

福徳園隘

長福寺

本曾三月一

義康古城

名産

権守兼遠家

野婦池

○宮腰

本曾義仲城

山吹山

義仲手洗水

殺原宅

名制衣玉揃

眞明神祠

長泉寺

名造諸器

櫻澤橋

月家譜

赤魚

柿殿

研犬台

正八幡宮

通に次郎兼光館

荻曾川

藪原

五反田橋

鳥居嶺

綱懸嶺

奈良并義高家

諏方祠

勢川

本曾義昌家譜

名製

水精山

斬蛇潭

南宮祠

今井四郎兼平城

往還橋

慈燈権現

巢鷹官舎

義仲硯水

奈良并橋

千村重照宅

平澤

構本澤

徳音寺

明星巖

烽火嶺

徳音寺

巴御茶第蹟

徳音寺橋

極樂寺

土産

奈良并

大寶寺

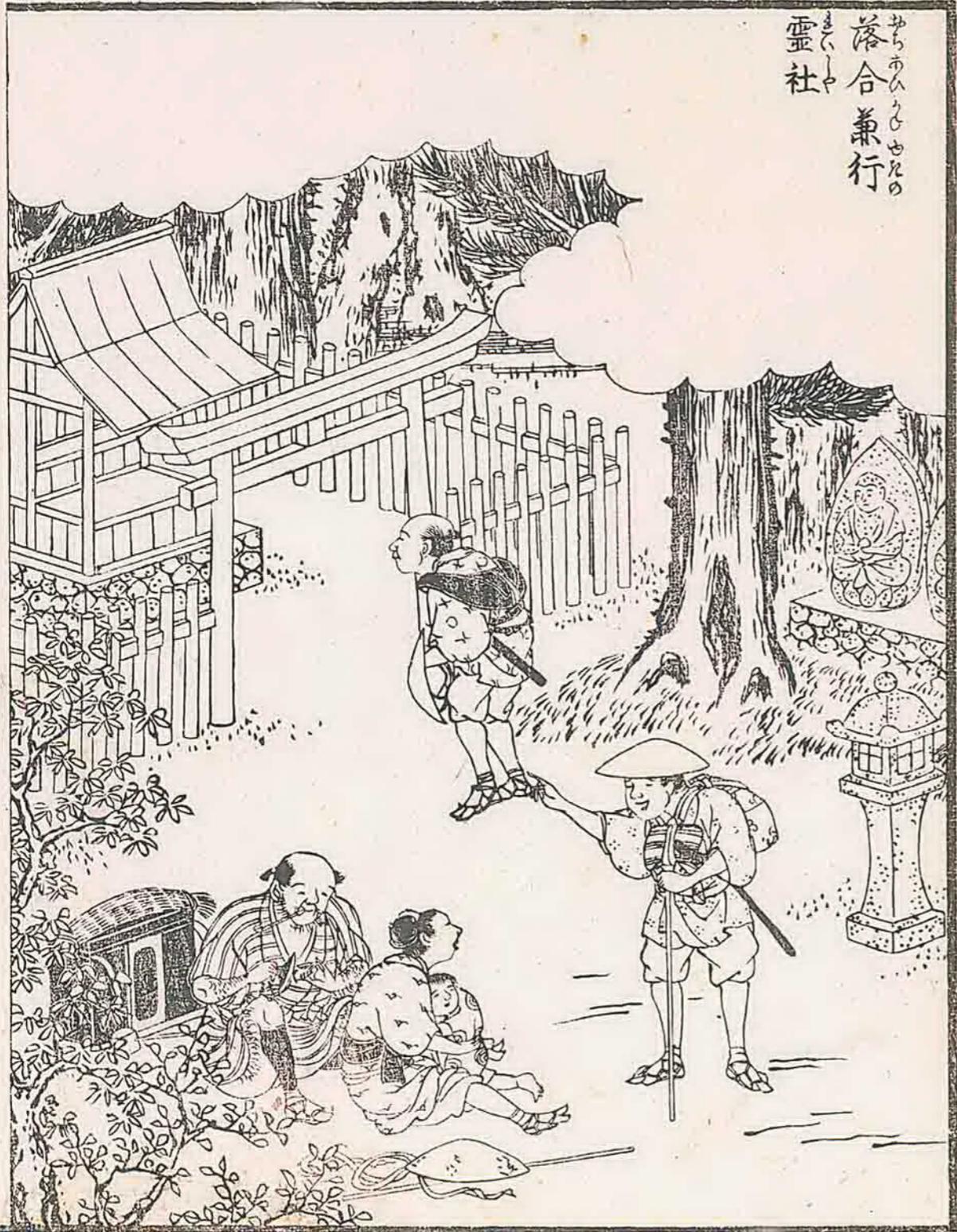
土産

勢川

諏方祠

勢川

わらわのういせいの  
 落合兼行  
 霊社



本曾路名所圖會卷之三目錄終

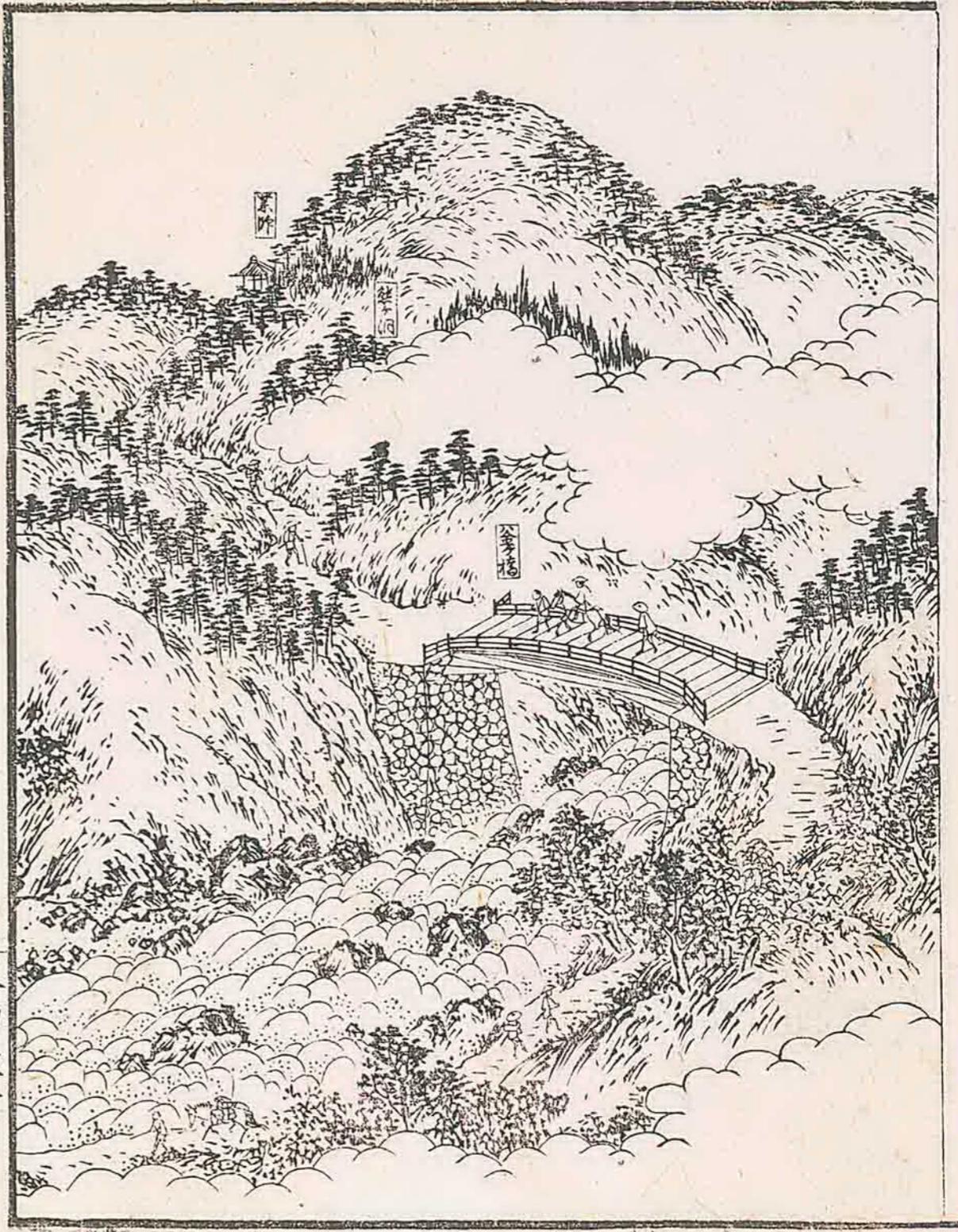
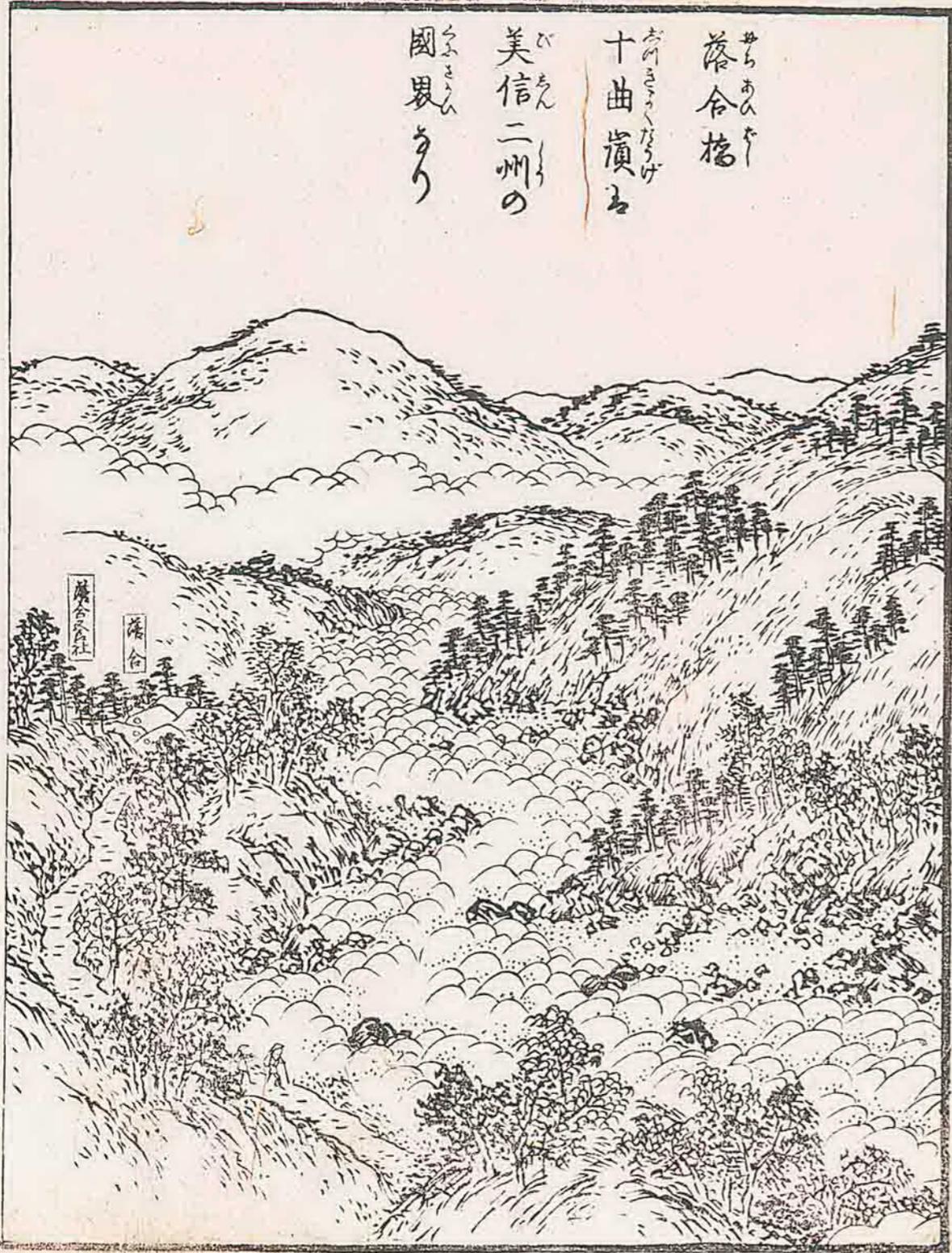
○ 觀音寺  
 千村後改家  
 五月日橋  
 黒川温泉  
 箕地山  
 西野  
 氷湍園道  
 本宮殿墓  
 ○ 幸山  
 吾光寺乃  
 塩尻

鶯着寺  
 荻曾  
 衣更着網  
 山神祠  
 烽火臺  
 黒澤  
 土産  
 兼遠墓  
 幸山親音  
 桔梗原  
 塩尻嶺

○ 洗馬  
 犬飼清水  
 浅間祠  
 御嶽権現  
 崩越古城  
 小子墳  
 駕疲嶺  
 奈川  
 諸獸  
 柳篋橋

熱河四郎宅  
 土産  
 秀綱澤  
 鏡棚山  
 地渡澤  
 御嶽山  
 岩戸権現  
 三浦山  
 義仲馬洗水  
 阿禮神社  
 大岩

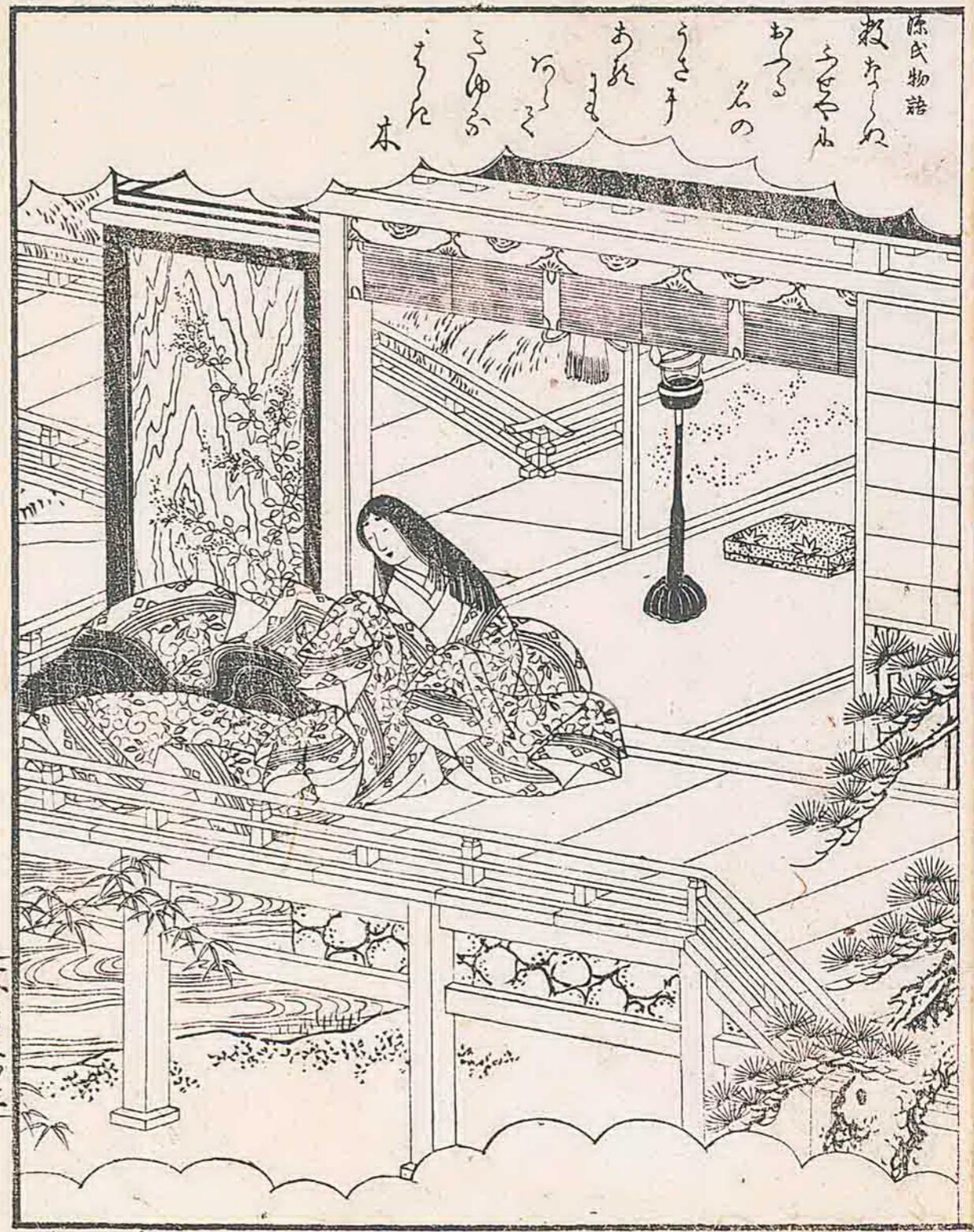
落合橋  
 十曲濱  
 美信二州の  
 國界あり







月夜本堂  
 英波の  
 信濃の  
 玉舟新小  
 あり  
 森の  
 帯本城  
 迎く  
 かなるり  
 急乃奇よ  
 孫光と



源氏物語  
 教乃  
 うさ  
 名の  
 あれ  
 うさ  
 うさ  
 うさ  
 うさ  
 うさ  
 うさ

三ノ  
 三ノ  
 三ノ

白狗導を我状ありて英法本出のふと云く

今いひて信法守藤原陳忠と云く人ありたり

元方の二男なり云五任國畢て乃れ上より下りし時坂と越り同本多の馬

た小翁を養ふ人の家なる中に守の業よりなる馬と棧橋の積ま

本を後足成りて踏折る守達さぬ本馬は業あがりて落しぬ屋をい

たくも志は保たれ守生さるあまもま守の叫びる物

いふ事遠小遠く聞ゆれば其家よりあるの虎孫何處を宣ふぞ聞く

云へば藤原小繩長くはあて下せと宣ふあり彼れ守の生て物小留

里で清まるなりなりと知る藤原小多くのこれ差繩どもと取集て

結びて結繩と云れくと下り中畧守藤原小多くと被絡よと云り

と云皇朝七十代の後までも神坂の嶮難男より下りて棧橋はむ

の橋のてくみこ橋を結ぶ大藏連をよめて柳と云く近世なる

方一本を架て是と後變りて編道の狭さと補ふるなり

今この樹原のありて英法路より古道ありて小繩川の奥

本卷三ノ四

これなり一説は真田のれく小ありて十の系

かると今と云く城のてくせよなりとせ

とくきこれ指やのこれなりと云くその系と云くあり

そはと云くや伏屋小生ると云く本の有と云くをわ君

ゆくと云くせあられも何と云く常本ののせけつり

伏屋里

藤原の中にある田屋をいふと云く信濃の丸をわけて坂のてく

或云は小繩をりて上より下りてありて是を藤原と云く先なり

其地は信濃の山の下に小家成造りて入りて定むるなり

と引て伏屋と云くその系は藤原の山より下りてありと云く

古昔有家武人之倭文幡乃帯解替而廬屋立

妻問為家武勝壯鹿乃云

又廬八燦ぬせをのすれい月或と云く返ふせありともあり賤る家の

むらて地みうらふせと云くあまもま守の叫びる物

常本藤原の小繩内蔵の意より見渡せばははるあまもま守のうらに云と

はあまもま守のうらに云と

全系 新古 後拾遺

馬内侍 坂上是則 降賢

或人かたりける一とせ受領はるる入る山本谷とのり幸育し小  
 ひくらの巨樹あり若かり教丈如く上る石積はささみ立り  
 又他本せたり並で櫛を高く高しあやれ樹るれ谷とあては小郷と  
 たて、おつら物を隠れ本とつとせは幸いささだるささ  
 兼好法師菴 住しと今 勢原の中は後後を安と称さけあり兼好を  
 猿猴せ音使通るるり山の中は者誰と  
 鎌倉街道 今勢原を結る勢原山より中河新の古より久しく後  
 て復通る中河遠山氏と者あり濃州遠山の莊を領はけ  
 時鎌倉將軍の代をけ道をけ道より鎌倉へ通れ又甲州武田は  
 濃州を渡り  
 濃州列宿所に入るなり

**馬籠**

妻翁まで二里 駅中南北三町  
 其好民居山中に散在に

**皂鵬巖**

駅の西山上小あり其好皂鵬の岩も集るる  
 故本名と信 英二州を隔たり

**下阪川**

下流湯船渡り小川なり

**諏訪祠**

熊聖権現祠にあり

**永昌寺**

後長福寺も属す

本三ノ五

**丸山城趾**

駅の西小あり丸山城趾は又駅の南小、此山とあり交と  
 合戦場といふ本名家傳云、備後守家村西聖田之馬  
 籠本云の岩と築く

**破種路**

これその一折なり 焚川まで廿一里、間水、動へ流る

千歳

れそ翁や本名はけらの丸本橋を足る彼小庵を居たれ  
 本賊うれさその河さぬ袖ぬきてみるぬ翁もむと致危  
 空仁法師

新勅

中くふひもむして信法を教本名翁の橋はけりやふせ  
 寂蓮法師

後後撰

甘ひさう言の指法もてゆくちぬ花む本名けりけし  
 源頼光

後後撰

かへ本名翁の橋はけく小舟を急ぬれ幸平も去る云  
 後系後撰

新後拾遺

云もらと下に立たふけしけのけりふ言れ本名翁のやむら  
 源頼光

新後拾遺

ふも本名翁の橋はけ中ふ名流るてや舟のき後らぬ  
 左大臣

家集

とむ月のうけ小さつる山人のいてはるあはれ孝のうけり  
 頼阿

**本曾川**

街屋の左小流、大河めて川中の石  
 大さうして取るく魚もそくか

夫本

足せそやかいう信法の本名流河君よ思ひの流さりり  
 源二位 行衣卿

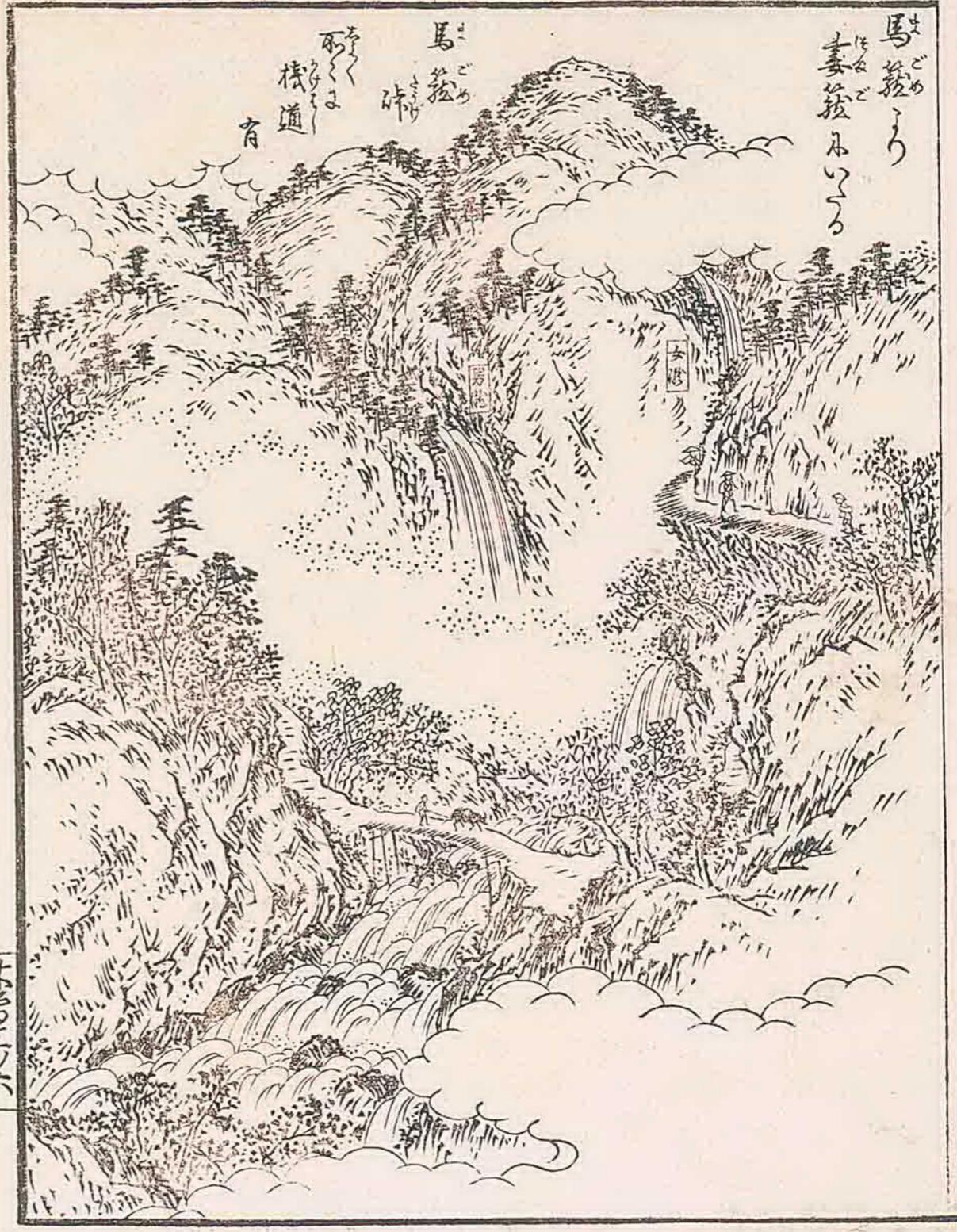
從關關傷秦丁力  
 棧道斜通驛令前  
 峯多蛇繞踏曉霧  
 樹深影魅泣霜天  
 蟠石不掃分軍夕  
 驥足欲就陷澤辛  
 楚老何圖當日事  
 禾蕪一曲隔風煙

霍山烟雉籠



馬籠より  
 妻籠へ  
 妻籠の川

馬籠  
 妻籠  
 棧道  
 育



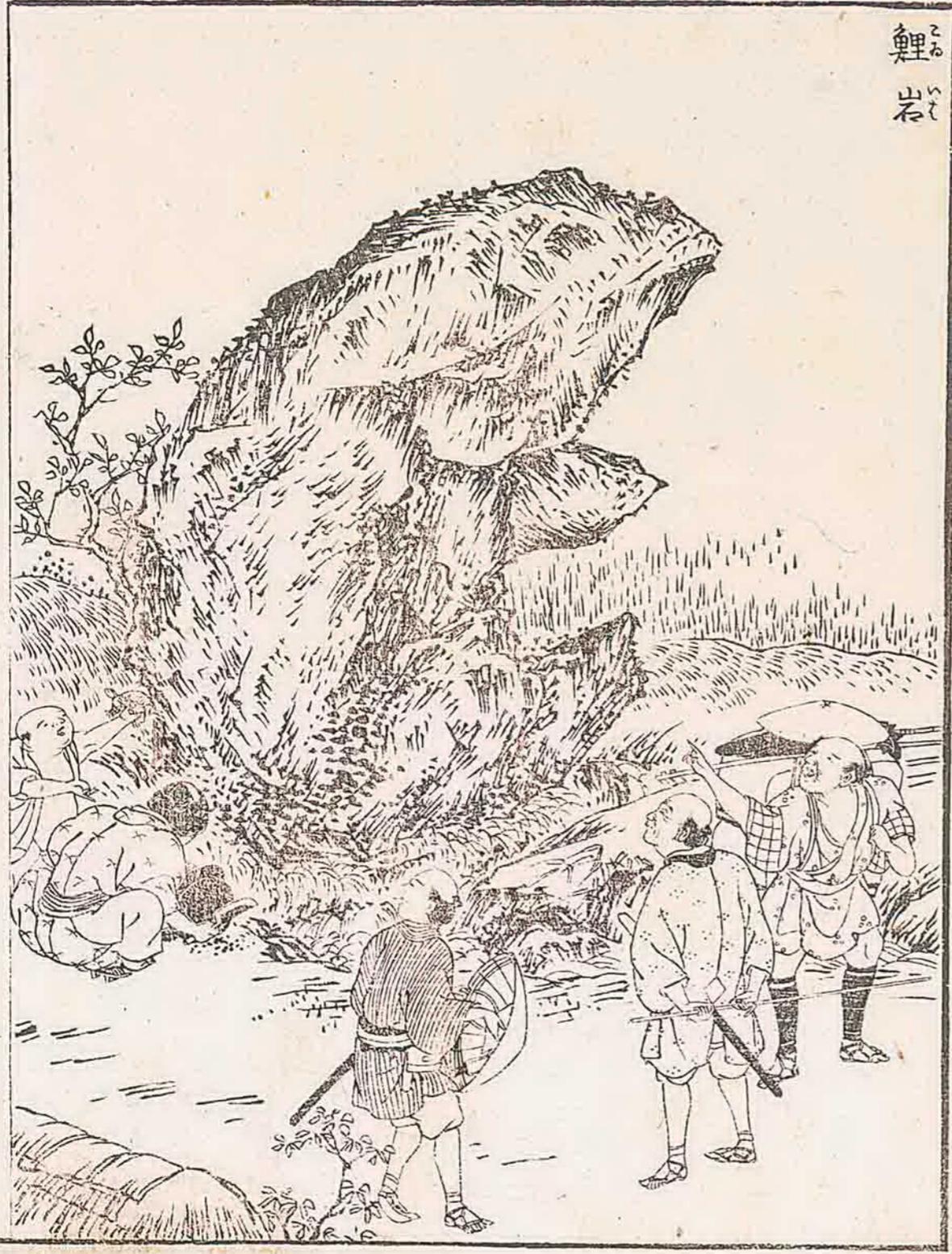
木考二六

信濃 妻籠

三留野までを里半駅中南山三所相對して巷成り  
 其餘は山間小民居多し本宮路と安曇郡なり越え信濃  
 と山國まで階坂多かれといふへと科野と書はは國東の上野  
 南ハ甲斐遠江三河も越後越中飛騨西と英徳之凡八ヶ國  
 且隣り國の長と東と雄弁味より西と英徳場迄  
 道程は十七里  
 本宮山中 谷中せむさゆり田畑まわして村里あり茶大豆粟  
 根木ハ石を鑿るあり風をぬぐ排り空粟熟り  
 少くも一載も移り信濃ハ竹と桑の本あり  
 寒さゆへに裁まとも移り信濃ハ竹と桑の本あり  
 用由中桶の籠ハ松木用由葉と信國より栗木又蜜梅  
 乳梅金橋本煉本焼かす種ふ寒氣ふさなり夏六月  
 熟し山中ハ松花多し山木も桃紅梅あり三月末頃一時  
 小花開く又は園ハ松とて冬ハ葉こくを落す夏本  
 松ありられを落葉松といふ  
 雌雄瀑布 駅の南邊の側ハあり雄ハ左ハあり  
 六妻籠 駅の南邊上  
 牛頭天王 駅中ハあり一村生上神といふ其外 神明祠  
 南宮祠八王子祠 俱ハ村民祭る

本宮三十七

鯉岩



妻籠古城 馭の東にあり城址現存以天正十年本曾義昌之將を築いて

山村良勝築いて之を小居とむ同十二年秀若公本曾義昌を討つ

修永路を禦く義昌兵筑良勝小増して妻籠城を築く時小住宗玄

郡主管小大膳諏訪保科を兵を令せ本曾と義昌と欲以志小蘭の

若を拔く妻籠城と攻ふ良勝士率小令とて鳥銃を放ちこれを防ぐ

修永軍登る夏を得む退ひく遠巻りく且水道河割城中水毎して

白糸をそのく馬込洗ふ敵を退く城中に水沢山より城壁して拔座

かたて軍を退けく修永は小居が良勝伏兵を設けく之を討つ

士率死亡する者多し若治大子殿走は廿は良勝の功状矣

鯉巖 妻籠の山あり是あり

烏帽子巖 形似る烏帽子あり

兜巖 右小嶽ふこれ

風越山 飯田の西あり妻籠に入る修永は通ふ所あり

本巻二ノ八

千載 風あり城の中をえられの村ありや修永の屋小写る家 清輔

詞花 風越の峯はくまて見ふ村ありや修永の屋小写る家 若原家純

夫木 手向もむきひくゆり風越の尾に種ふ小嶽 源頭仲

新六 かくて月と見ふとら小嶽吹てあね風越のこひ 為家

十五百表 さくむとらの村兼は吹てあね小嶽吹てあね風越のこひ 公徳

古木曾嶺 飯田界あり

松樹澤 飯田の西あり古松の大樹ありて其の松樹のこひ

修永軍を禦く義昌兵筑良勝小増して妻籠城を築く時小住宗玄

其時の射殺の激なりん

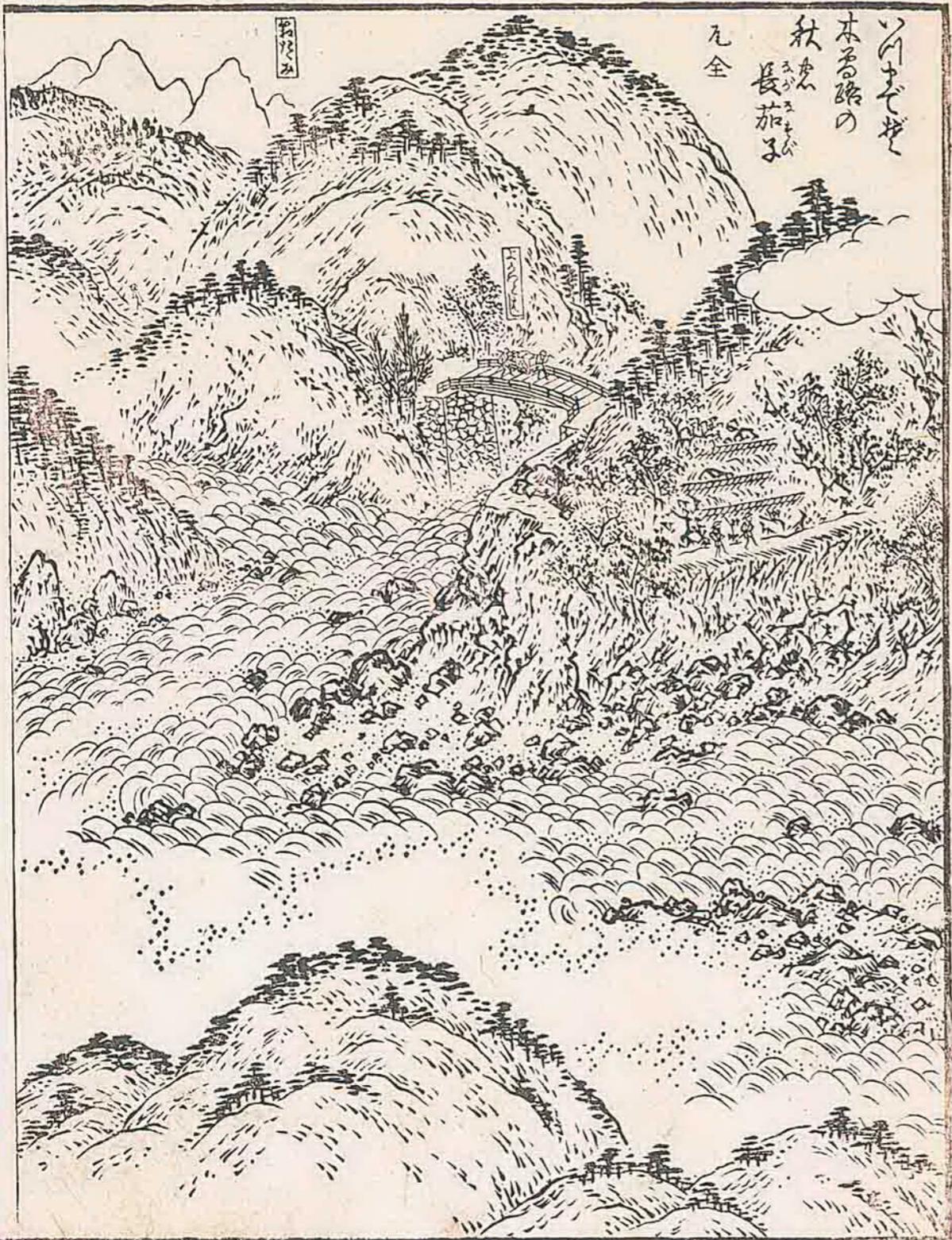
聖屍中て二里才駅中南北二町好は相対して巷城より本曾路を

信濃 三田野

みか山中たり名ありや源山を谷より岨付くは小嶽の嶺あり

統中三留聖より聖屍中での間をぬりて道をたうけ間左を殺十回

浴れ本曾川は踏の狭き所を本を伐りてく並へあぐりあり



山の上で  
 本居路の  
 秋  
 長茄子  
 元全

山の上

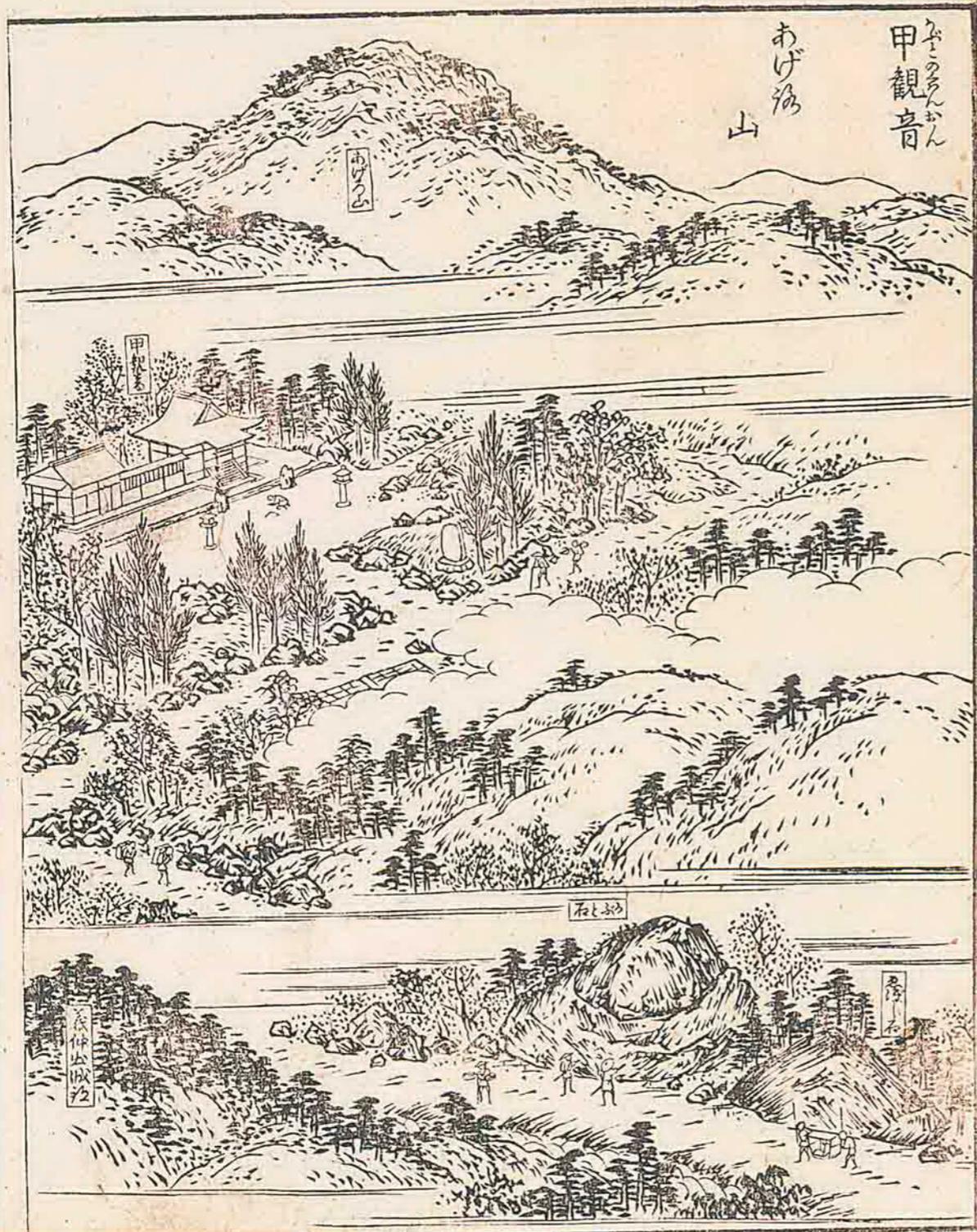
山の上



三富登より  
 聖尻まで  
 船く峻  
 踏し  
 核道  
 多  
 新法拾  
 雲もか  
 下に之なる  
 うひさの  
 けさる  
 本居の  
 山  
 深頼具

山の上

山の上



かく見街道は狭きを補ふ右と左の山を屏風状にたてて  
 其の中へ奈文巖の如く路を遮ふ此乃小橋乃まゝいづれも川の上  
 にけふ橋ありあはれ碓道の絶ゆる所よわけたる橋あり他國ふち  
 くるやふちけし移りし山の尾崎坂色くく若くは入る先の山  
 尾崎坂まゝの所より其若道は横つて溪川の流る本若川小橋合  
 所よりこれより小橋ありあつた事甚しは間中橋とる所有  
 其向ひ小垣友とる所も有り其ありは溪川一流ありて雙方の間  
 に大岩あり其系あり  
 園原生の碑 神戸の東にあり天明三年これを建て  
 牧 牧澤橋 横川戸橋 羅天橋 いづれも樹樹  
 伊勢山 伊勢の西小川あり河を隔りて里流る天正十年  
 奈岐嶺 嶺の東にあり又一名嶺比谷とる小川は奈岐嶺と御嶽とお嶺  
 揚籠山 神戸の西よりあり即奈岐嶺と嶺比谷とを記す其ありは中  
 をり山徑嶺嶮人登るまされり奈岐嶺の近れ所小窓ありは中

本巻二十

廣さ約十歩其内小方式三丈の平石ありて種成山姥の石座と  
之傍人足跡山姥の謡曲小声をあげ給の由也  
牛頭天王祠 住吉祠 白山権現祠 若宮祠 劍祠 熊野権現祠  
俱小三家聖小

等覺寺 三雲和尙を創し  
觀音堂 神戶の觀音と稱し馬頭觀音安ん村民香火を捧ぐむし  
岩戸觀音 千手の像安ん

名産和合酒 酒の味極佳  
三富野邸 駒のあ小一の阜山あり給ふん城山とて本若義仲の子孫  
年中將軍尊氏小屬一武功

本曾古道 細目久田見蛭川高山宿坂率小いりこれ三富野小屬  
是其古道ありいづの代より交易易いりるありん

三富野より魚小坂羅天坂をえり清水村小いりは間世町  
許あり皆みむ中極村坂をて尾城の農家に約り十二極村

野尻

より駒ヶ嶽嶽見内口時雲城峯に戴きて風色斜あはりて  
坂をえり芝山下左家より聖尻の駒みいり

須原までき里二十町は駒いり一里路里中書以駒中  
東西五町餘相對して巷城を其終山間小敷在り

飯盛山 駒のあ小あり河を隔り  
本若大河 三反聖の東よりり城をく上松小いり水流奔

騰して其聲雷霆の如く大雨の時水漲りて畏るべし  
牛頭天王 鹿島祠 白山権現祠 住吉祠 諏訪祠 俱小村民

妙覺寺 須原中あり勝寺小屬  
野路里右馬助家益家 年長とある文禄元年豊太岡檢地の時石回備

本戸彦左衛門致春 奮小笠原の族人行り國孫本戸小ありて氏とん  
怪に其子孫歴代里番とある家小古甲曹乃び

太刀一柄あり長サ三尺三寸許極先く奇他あり

野路里館 野路里館の南にあり今城山といふある時古徳一行を鑿掘り岩あり古甲曹の朽敗をたおろし人老古城の證といふ

長野 東山道の中にあり駅次本非に民居を山に依りて住居を

今井四郎兼平城 其麓に古徳の址あり今井といふ山頂小城址あり

本曾殿館 村に後三ノ宮小居に其後三ノ宮の遺址あり本曾殿

其頃子小園を設け英法を所せし合戦勝る事トて諸小入

小居には意古徳教基あり里人云本曾殿三ノ宮小居に至る極徳

然ども其准といふ変を志すべ又一岩あり幕岩と云里民云本曾殿

花孤堂と云の地なり

弓矢八幡宮 弓矢村小あり本曾

貴船祠 十月に日石川兵後光吉神田を寄進

出雲明神祠 其頃子須原親を所せし合戦勝る事トて諸小入

阿弥陀堂 出雲明神祠の境内にあり阿弥陀の

天長院 眞言宗中興より須原と云り竹室小女殿若經六百卷有

跋小大應二十三年 永正八年書の文字有

本居三十三

辨財天森 本居川の

河満橋 橋杭あり東西より切ゆ

磐出観音 伊奈川村の上あり幸馬頭

叔聖尾の宿成るく左本居の大行を見く長野村の天長

院尔蒨一中徳の岩よ本居一まん辨財天を遙祭一弓矢村の古

関門と見て杖をければは間の坂嶮一色平沢ひく田中むく城

経く大徳村の今井四郎が城址を見端勝村より伊奈川橋より

町を須原の駅本泊に

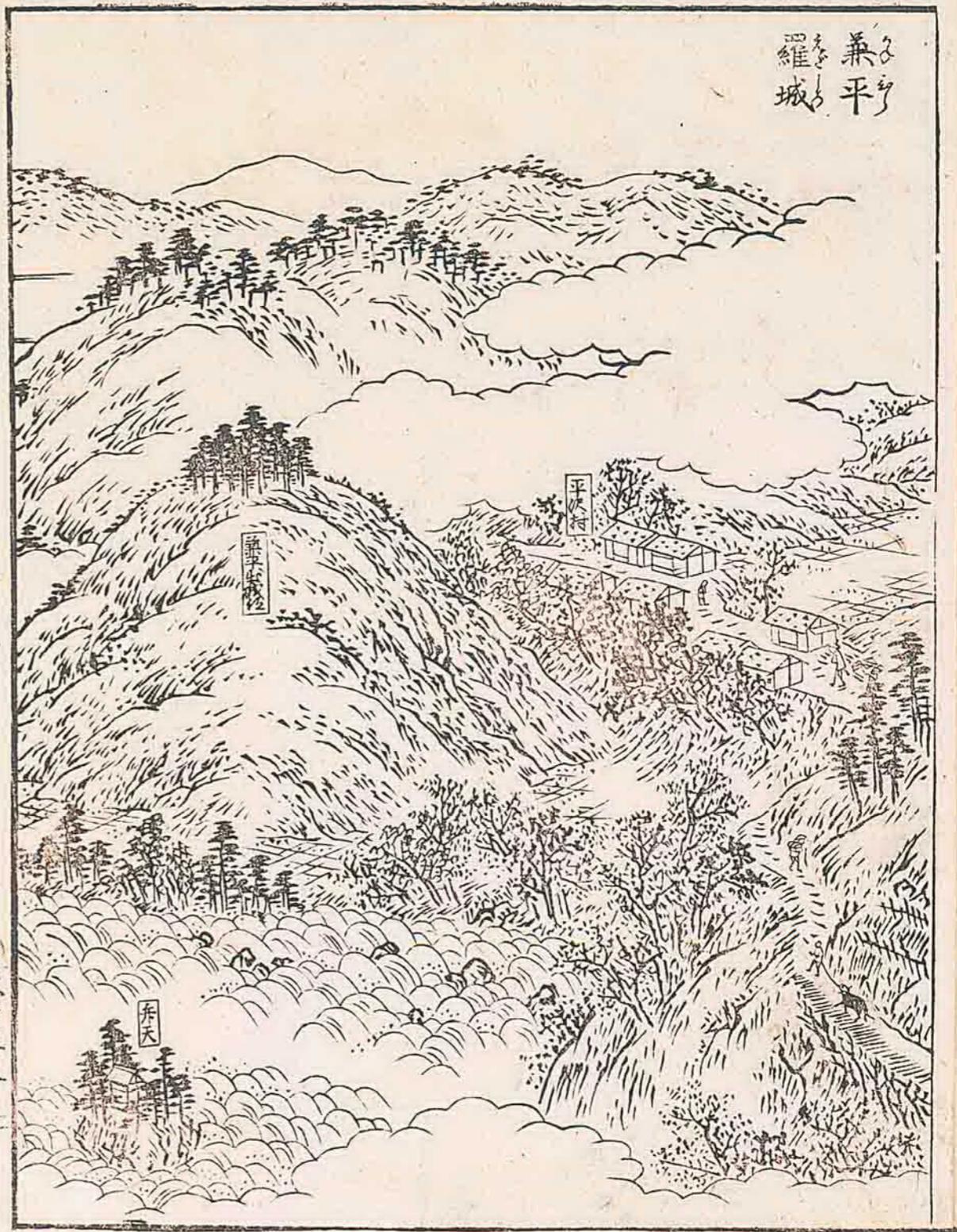
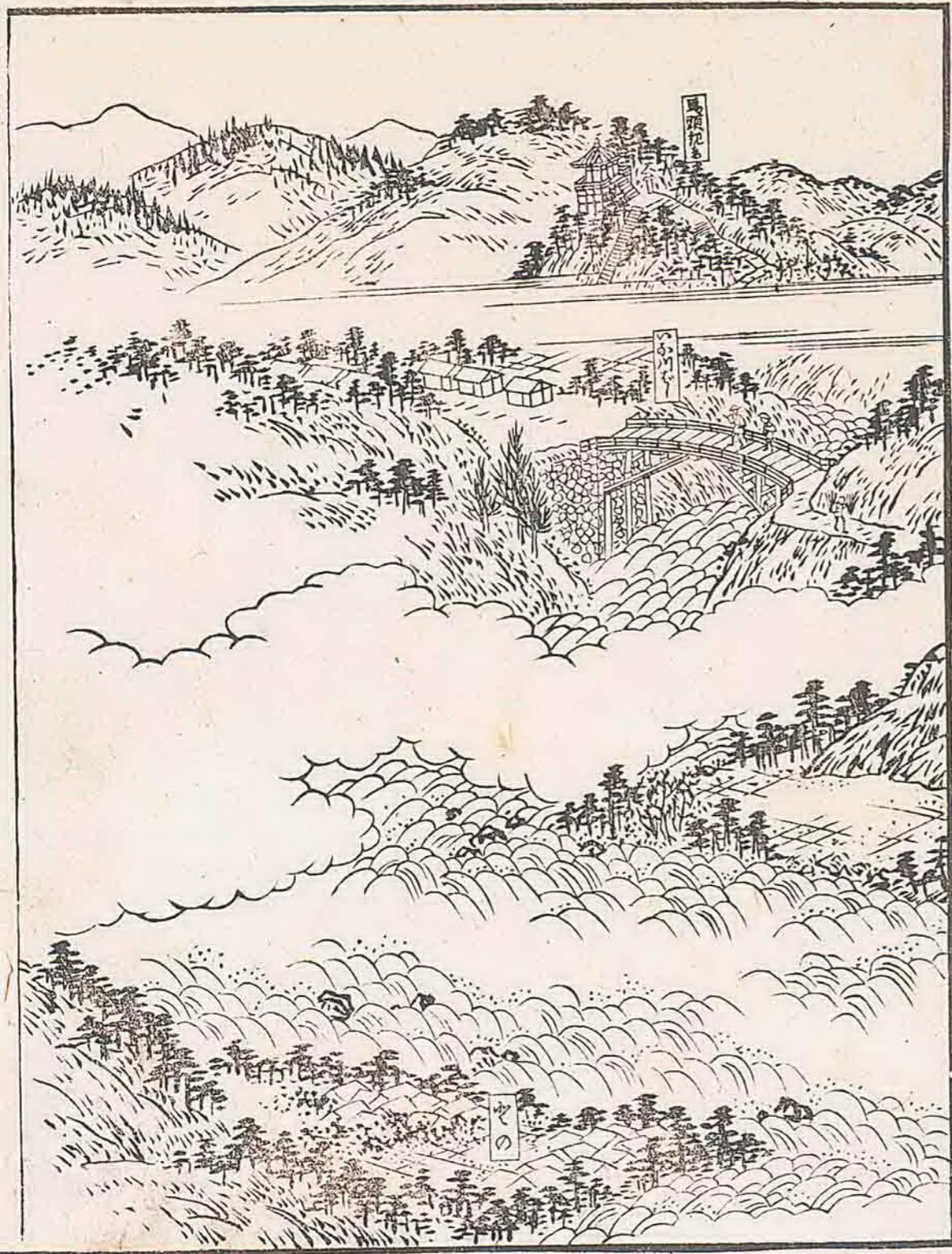
上松まて二里九町東山道駅次なり東西四町併お對して巷を

かん土産緑綿は色に諸村蠶紙巻入幸多し

伊奈川橋 三重中岡大木本居に最壯觀なり後世石をそく崖に

浄戒山定勝禪寺 須原の西にあり藤原





水巻三ノ十二



左京大夫親豐墓 寺内あり墓上あり大樹の傍あり  
 鹿島祠 これをををる  
 其園に式尊許

澳原を出き小沢ひく大洲村より本若川より大洲あり其地  
 半たれど松ひく木ひく其溪川より流れあり其橋あり南む  
 番場村これに溪川の橋あり隣倉倉卒立町より茶店あり  
 立場あり宮の堂村らわら村を過り萩原にわたり

小野 龍 小野村の右の路傍あり  
高三丈許直下本若川に流る

は瀑布泉と山洞より霞をたらし只布衣はくせしが若く落  
 侍小石像の不動尊あり細川玄吉の老の本若越より死  
 小本若路の小聖滝堂より布引無面をともも母とく  
 やいさぶこれ程の物乃此國の奇松ありふそしむる若く書  
 且つかり真水雲花と素練派とれる石小噴びと明珠と散  
 とはけ所の事とるべし

小野龍

ふ光川橋 本若川より長十五間南より  
 寝覚山臨川寺 寝覚山あり  
 本若川に橋ありは色特小急流なり

奉尊釋迦佛 岡山活山和尚

辨財天祠 尾州身四代

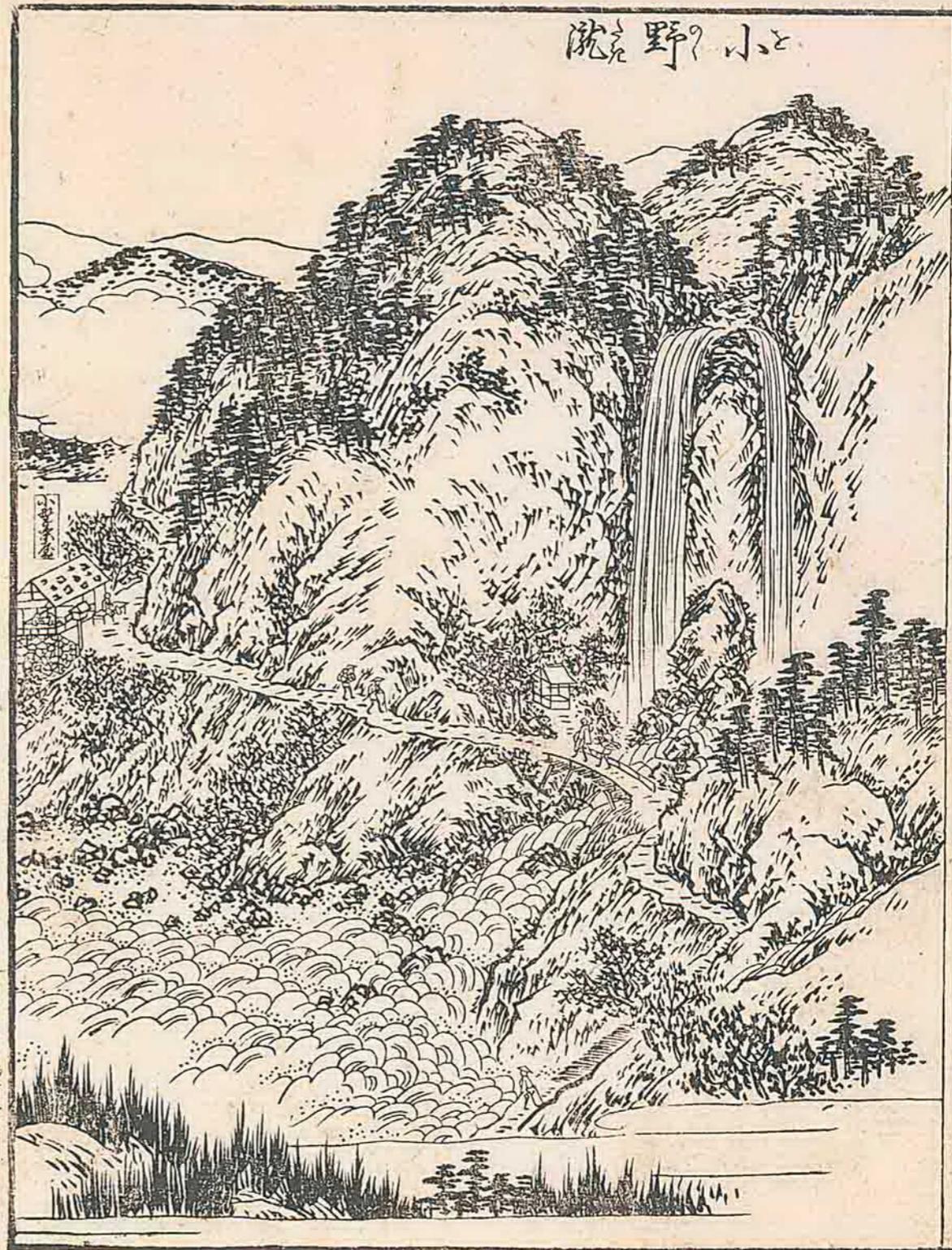
木曾八景  
 寝覚夜雨 棧道朝霞  
 小野瀑布 德音晚鐘  
 駒嶽夕照 衡川秋月  
 御嶽暮雪 風越晴嵐

寝覚林 尾州の家臣あり  
 寝覚の床を藤川寺の茶裁のこころ岩間をたして

みちあり其道それごとく福さ免の床と本若川の汀  
 あり大岩あり横を十回長四十間をうり有こ本若川  
 ひと狭き所なれを遊覧してふそぶ水のさぬ目もなほめく  
 地を深さもけつろくそは福さめを床とわく大なる

八景

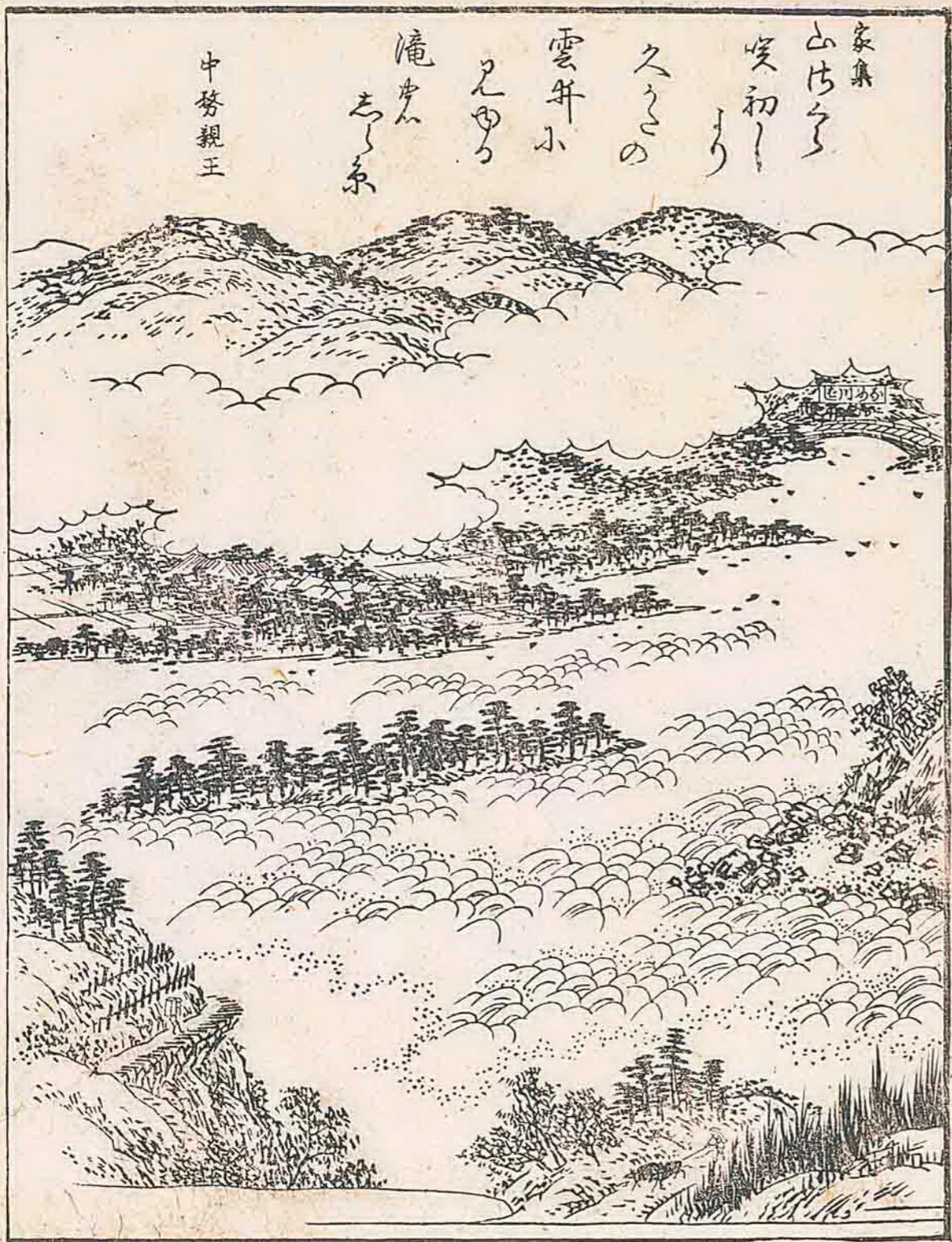
小野の滝



小野の滝

家集  
山崎  
咲初  
久々の  
雲井小  
滝  
志系

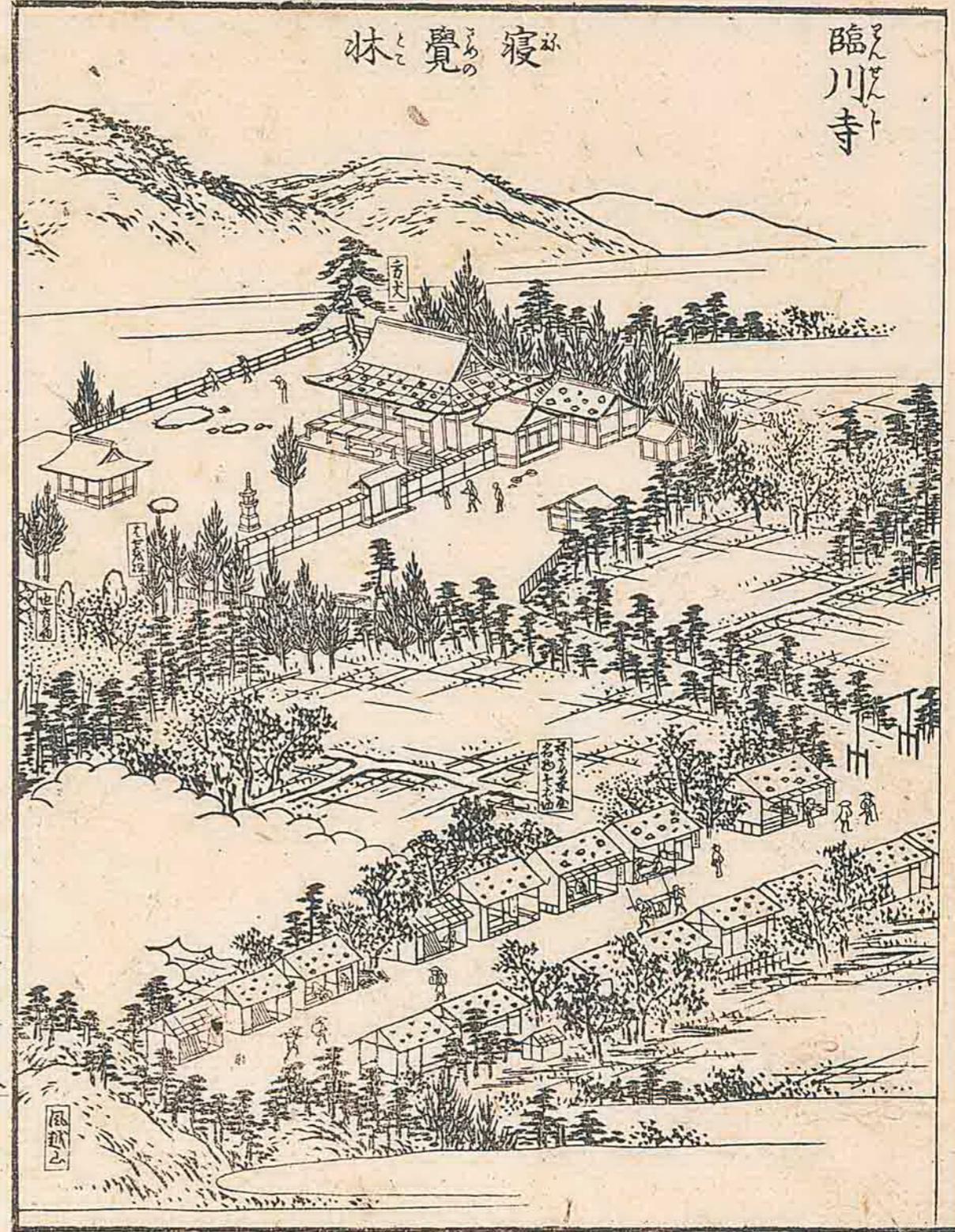
中務親王





臨川寺

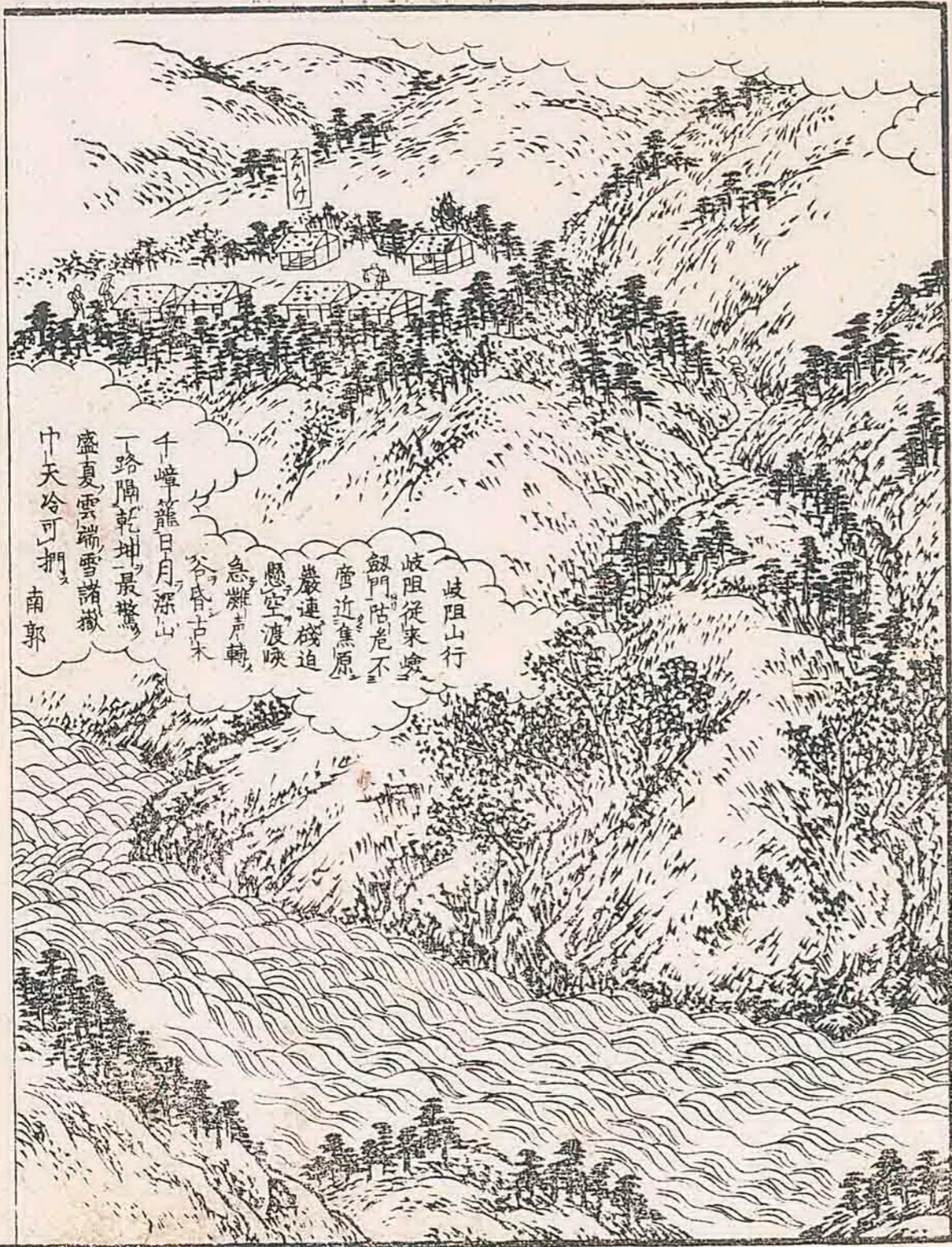
寝覺の林



岩  
安  
あも  
杯  
て  
あ  
月  
あ







岐阻山行  
 岐阻従来峻  
 劔門危不  
 唐近焦原  
 巖連峻迫  
 懸空渡峽  
 急灘声轉  
 谷昏古木  
 千嶂龍日月深山  
 一路隔乾坤最驚  
 盛夏雲端雪諸嶽  
 中天冷可捫  
 南郭



上松より  
 福海の洞小  
 棧乃の旧跡  
 わく上の  
 山は街道  
 ありて  
 棧さし須  
 はあだつとせ  
 後世今のめく石と後て  
 橋も短く儉さ  
 かせ  
 命と  
 苦  
 かせ

今世素安穩なりと種を岐許橋より長巻二間許新巻  
更かく橋下の石小流あり

此石垣慶安元戊子年六月良辰  
成就焉畢

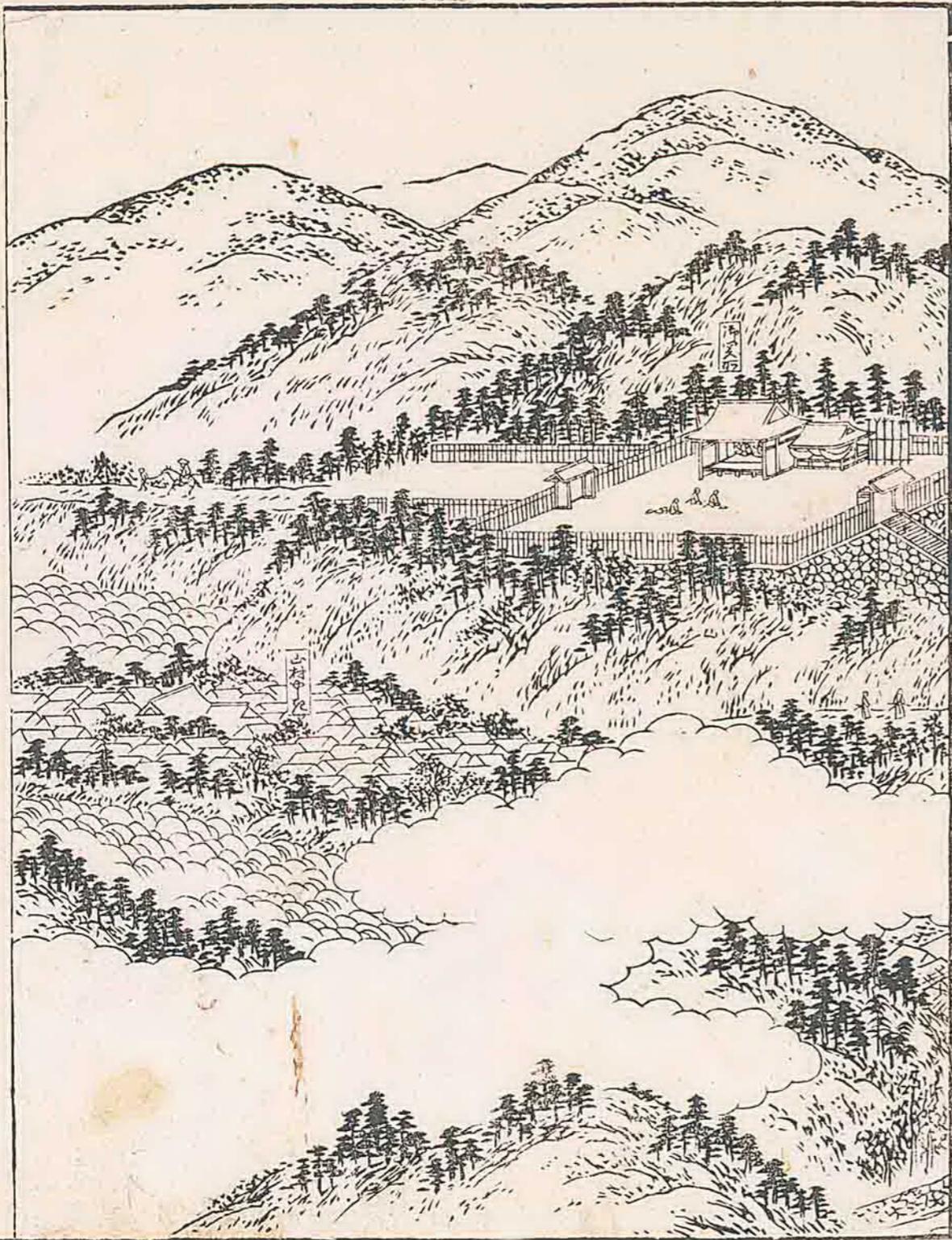
又寛保元年辛酉十月吉辰

御嶽川

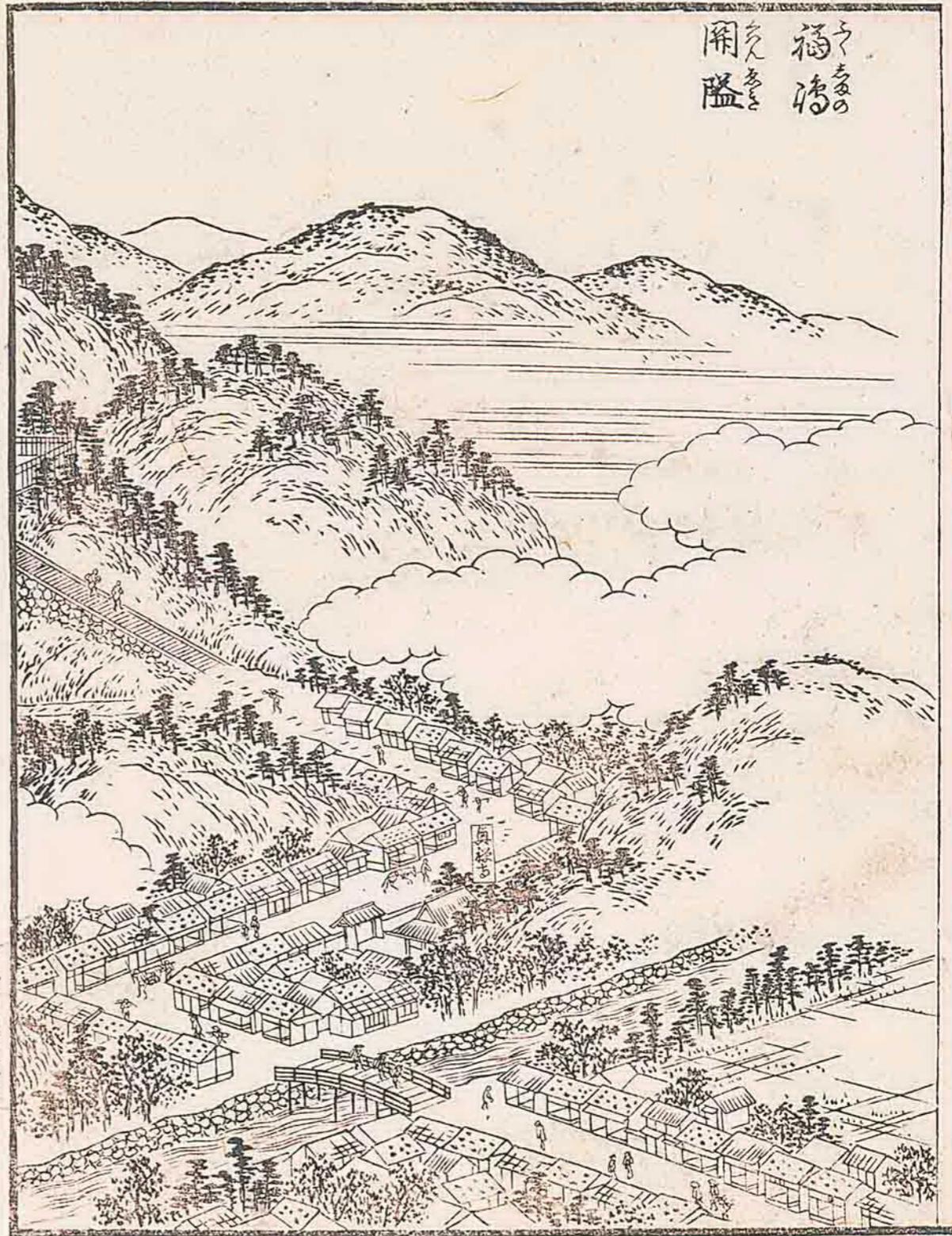
級海の所にあり別み大あり川流れゆる谷あり藪系  
御嶽川 定より流るる本谷の幸谷よりとあり  
御嶽川の本谷の御嶽より其谷の奥良材駁一福橋より其溪  
の川上も十里許ありは河の流まゝて材本多く出付は河上の方  
本谷は御嶽より大ありと高き山あり西北ふあり  
はひふ雲多き山あり予さ月の末に通るる山あり雲多し  
浅間ももろく流るる河のむづ一道の石本御嶽の石あり幸溪川  
を御嶽川に合されを合流と名づけは所より御嶽見ゆそれ岐嶺の  
山中に材本多き山ありよ及び檜楡松榎多し杉もあ  
標も多ししてあり御嶽をい故小川下へ流る幸あり  
一木三十九

真本特小多し又山中も道の側木様の本多し大樹あり葉も朴  
の木に似たり枝もまきまきととびと終り実ありと柿もれと土民  
これをとりて粉めし餅として飯小宛く食用とを飢饉に  
其本は横文ありて器物小可なりととも尾州君より伐ふ幸と禁  
制もてそ終り伐るは家民の食物小なるゆへに材本を伐ふ  
松人を尾州君より和泉紀伊辺江の人を備へ遣ふる毎年春冬雪  
消二三月も山に入ると十月も物九幾千百人と入幸は冬は  
入ふ松人まこと切りなど持て毎日引もさし以上方より本谷下は松  
人とも山中も家育て居候を本谷材本に別りありは博小つり  
長に尺許ある山は本谷河へ流せはいつとも好くあり小流ひく流下ふ  
河中の石小ありとそありたりは小流なるその来りて流下ふ  
松よりと水もよく石高をた通るは流る本ども本谷と色で  
英法の内吉田のに里川上小流織とつ所よりは石常小大流と張て





福清  
開隘



木  
三  
九

義康古城 驛のありありに三峯及び驛也

本曾肥前守義康家譜 左系大主義隆の子なり頃承りて城を築く

鐵田信長と率兵二十餘年小及べども若く敗走せし本曾の威勢は時盛なり武田信玄が誓をむさんど和を講じ

本曾左馬頭義昌家譜 義康の長子なり後伊藤守と号し武田信

長に其子勝頼と隙あり鐵田信長と和議を結ぶ勝頼これを

同く大不怒に天正十年典厩信豊を以て將せし

これを擧げ義昌出陣し信豊馳走し勝頼今福院あり

鐵田信長父子大軍を率て甲州小入る逸小勝頼父子を

斬く武田を滅し三月十九日信長上野原に至り信長

寺小陣に從兵十萬騎義昌を以て面謁し信長其功を

賞し筑摩安曇の二郡を賜封し天正十八年豊臣秀

吉公北条氏討平むると義昌を世々本曾小孫と先

民公を傳へ頗るこれを忌む下徳田へ左遷し武田の

率に其子仙三郎義利流藩して其家遂小む

名産 駒 本曾の流傳小率あり其孫を以て受これを毛術駒也

其後此駒

赤真 本曾の流傳小率あり其孫を以て受これを毛術駒也

河鹿真 本曾の流傳小率あり其孫を以て受これを毛術駒也

岩奈魚 本曾の流傳小率あり其孫を以て受これを毛術駒也

名製 執蓄 本曾の流傳小率あり其孫を以て受これを毛術駒也

凍豆腐 本曾の流傳小率あり其孫を以て受これを毛術駒也

凍糕 本曾の流傳小率あり其孫を以て受これを毛術駒也

諸藥種 本曾の流傳小率あり其孫を以て受これを毛術駒也

續日本紀云

天平十年八月信濃國獻神馬黑身白

駒嶽 本曾の流傳小率あり其孫を以て受これを毛術駒也

盛記よ云け山小神馬あり三季物諸天心の頃鐵田右丞相甲州

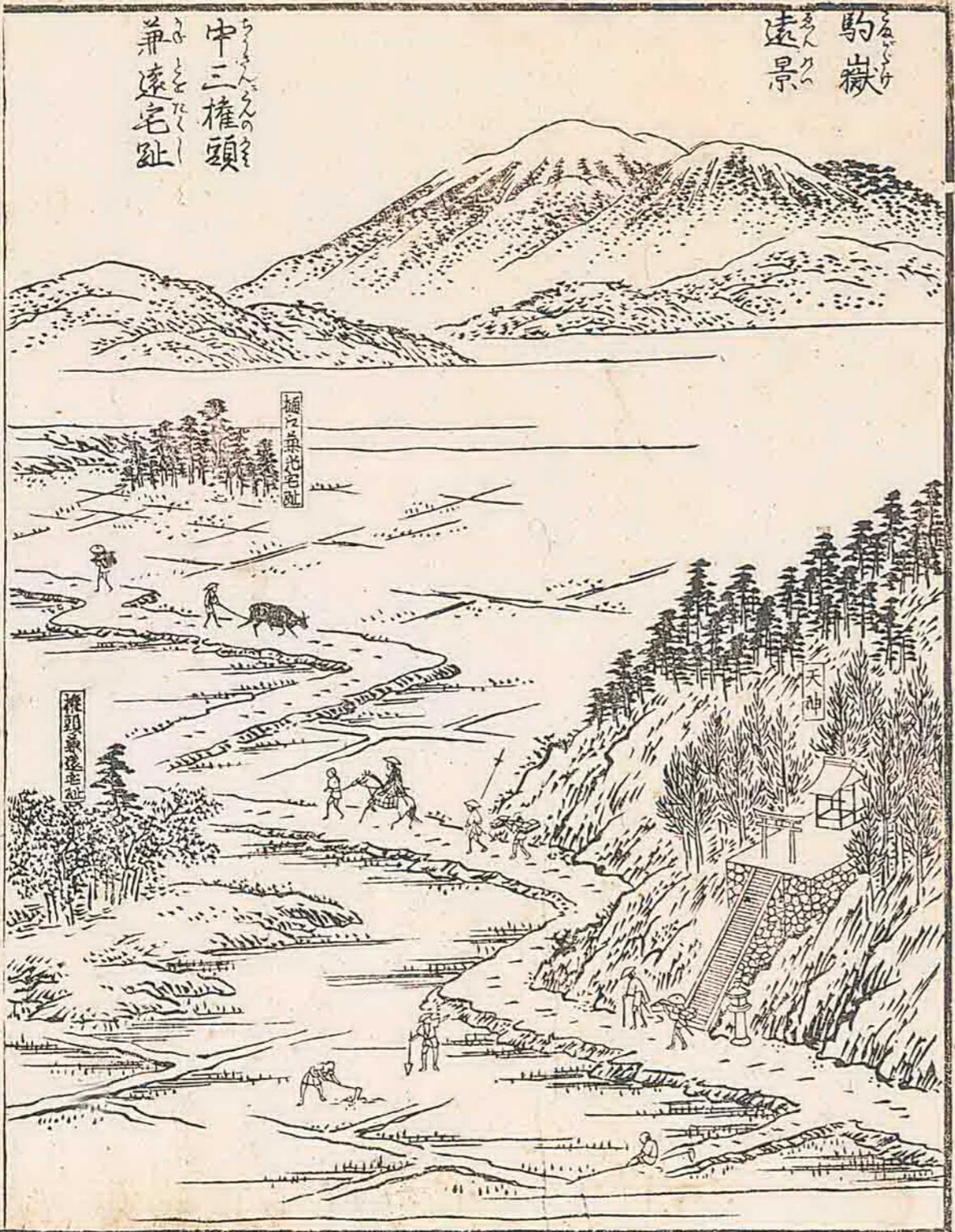
と征伐して軍城めらじ諸將小向のりて是聞信州駒嶽小四百年來

以及ふ神馬あり

髪尾云

斯の如く旧記あるはゆ年諸州の軍年征集く駒嶽と圍んとこれを狩り  
 んと思ふにひく此右の將の富士乃牧狩小做ふを一々餘は支度なる  
 所其年の六月明智光秀が若小我々其幸際といふ山は三峯あり  
 三つの内第一小高れを大嶽といふ移く大なるり及遠方より鮮小見也  
 本曾山の中なり山上の雪六月土用の末に消く八月又移る駒嶽の  
 麓を大原といふ其間小川筋あり駒嶽より流る水なり駒嶽が嶽れ  
 山脈上存奈宮處ありは奥よ今村といふありて龍洞山といふ寺あり  
 寛永の頃飯田城主服坂茂其嶽の陣を小止宿ありて殿邑の八岐れ森へ  
 狩小知れ駒嶽と隠えく詠に  
 尾も志海へ頭も冬く駒嶽かんのほく雪のちやこ  
 中三権守兼遠家 駒嶽上田村のふあり今田圃とある其林中に  
 服松や今村と  
 松や今村と

駒嶽 遠景



中三権頭  
兼遠宅趾

治義四年九月七日丙辰源氏木曾冠  
 者義仲主者帶刀先生義賢二男也義  
 賢者久壽二年八月於武藏國大倉館  
 為鎌倉惡源太義平主被討亡于時義  
 仲為三歲嬰兒也乳母夫中三權守兼  
 遠懷之遁于信濃國令養育之成人之  
 今武略稟性征平氏可興家之由有存  
 念而前武衛於石橋已被始合戰之由  
 達遠聞忽相加欲顯素意爰平氏方人  
 有笠原平五賴直者今日相具軍士擬  
 襲木曾木曾方人村山七郎義直并栗  
 田寺別當大法師範覺等聞此事相逢  
 于當國市原決勝負兩方合戰半日已

木曾三十九

暮然義直箭窮頗雌伏遣飛脚於木曾  
 之陣告事由仍木曾率大軍競到之處  
 賴直怖其威勢逃亡為城四郎長茂赴  
 越後國云々

兼遠と信州本名の人あり姓中原故小本名中二と云ふこれより向小若刀先  
 生源義賢其兄也馬頭義朝と不和あり武勇大義若小於之懸源と義平  
 こ種を殺さ義賢幼見あり駒王と云ふ後別由定盛抱を負く信若小  
 仍兼遠小托以兼遠潜小書育して元服をさせ二郎義仲と云ふ活兼子  
 中平家上皇女名羽の許之小押義高倉王義兵と起しゆ小討義仲王の  
 令有城之と義兵を率内兼遠これと輔佐と兼遠小三子あり新澤  
 樋口二郎兼光今井四郎兼平落合五郎兼行みか本名殿小随従して  
 武名あり又一女あり巴といふ頗勢力あり  
 峠殿  
 上田村の民を結石橋といふ者あり其宅あり今に即ち此を  
 峯と云ふ

映あり村民之小これ其野原義仲とてに潜居しやふ

水精山 あり今に云く金満なり其地むくく水精山又金満を垣

烽火嶺 本有川の西岸上あり福島の成山と相対を傳云本有殿

野婦池 越前守の西の麓にあり池三所并其深サ測ふべし其

百姓其婦に教作とて親ひ見まは髪逆ふ立く類小肉角を

逐出を竟小平京に遊看して侍の柳と截く杖とて性未以

時水面小機と鐵車と見其柳枝系を折ふ小竹今小玉川に

研犬谷 麻犬年少く石壁の下に墜犬悲聲を案て麻と遊ふあり

斬蛇潭 本有川の西岸あり相傳あり一農夫ありは

明星巖 本有川の西岸上あり頭注云

本有二九七

信濃 宮腰

萩原中二里又宮越くも書以歌中東西に町半相對

して巷を形を其好山同み散在ん

正八幡宮 里人云本有義仲は神前して元服をとり

南宮網 一か村生云神

德音寺 本有義仲の牌を蔵む同奉朝日將軍本有義仲宣

本有義仲城 本有義仲の東にあり里人其地と

家系と清和天皇七代の孫六條判官為義二男常刀先生義賢

義國之孫谷の館小あり久壽二年八月其兄義朝と不和あり其子

惡源吉義平死して討平ぐむ義賢小二子あり其嫡子成仲家と

以源三位頼政事より子と其次に義仲とて推名を駒王と名

けく父義賢害せし向村二葉齊藤別當盛之持成匿して佐列